

木野通信 KINO PRESS

KINO PRESS Issue 59 | 京都精華大学広報誌

木野通信

京都精華大学
AUG. 2013 Issue 59

巻頭 卒業生インタビュー

脚本家・木皿泉が語る、 フィクションのもつ力。



59
号

特集 01 FEATURES 01

04 巻頭 卒業生インタビュー
脚本家・木皿泉が語る、フィクションのもつ力。

10 ポピュラーカルチャー学部 of 豪華な非常勤講師陣

11 学長コラム「セイカ幻史①」

特集 02 FEATURES 02

12 京都精華大学のキャリア支援に注目

大学ニュース NEWS

14 ポピュラーカルチャー学部客員教員が新たに決定／マンガ学部客員教員 業田良家が「手塚治虫文化賞 短編賞」受賞／「マンガ・アニメーション研究 マッピング・プロジェクト 調査報告書」を公開 ほか

17 2012 年度決算および、2013 年度予算について

連載企画 REGULARS

20 研究室探訪 芸術学部テキスタイルコース 市村富美夫研究室をレポート

教員のブックレビュー デザイン学部 山口義順が選ぶ「対象を凝視するきっかけになった」本

セイカ事典 は行

22 イベント紹介 石川九楊連続 [公開] 講座／京都国際マンガミュージアム展覧会／京都精華大学オープンキャンパス

京都精華大学 学部・学科・コース

■芸術学部

◎造形学科

洋画コース／日本画コース／立体造形コース

◎素材表現学科

陶芸コース／テキスタイルコース

◎メディア造形学科

版画コース／映像コース

■デザイン学部

◎イラスト学科

イラストコース

◎ビジュアルデザイン学科

グラフィックデザインコース／デジタルクリエイションコース

◎プロダクトデザイン学科

プロダクトコミュニケーションコース／ライフクリエイションコース

◎建築学科

建築コース

■マンガ学部

◎マンガ学科

カートゥーンコース／ストーリーマンガコース

マンガプロデュースコース／ギャグマンガコース

キャラクターデザインコース

◎アニメーション学科

アニメーションコース

■ポピュラーカルチャー学部

◎ポピュラーカルチャー学科

音楽コース／ファッションコース

■人文学部

◎総合人文学科

巻頭 卒業生インタビュー

脚本家・木皿泉が語る、フィクションのもつ力。

テレビドラマからアニメ、小説まで引く手あまたの脚本家、木皿泉。

その実体は二人でひとつの名をもつ、夫婦の脚本家だ。

木皿泉の一人、妻鹿年季子さんは京都精華大学の卒業生。

彼女が学生時代に学んだものづくりの真髄、

そして二人が考えるフィクションにしかできないこととは。

夫婦脚本家・木皿泉の存在を、テレビドラマをつうじて知ったという人は多いのではないだろうか。2003年、はじめて脚本を手がけた連続テレビドラマ『すいか』で向田邦子賞、ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞を獲得。その後、『野ブタ。をプロデュース』『セクシーボイスアンドロボ』『Q10(キュート)』など、数々の話題作を世に送り出した人気作家だ。しかし、彼らの活躍はテレビドラマだけにとどまらない。作家活動の原点であるラジオドラマのほか、舞台脚本、アニメ映画などにも果敢に挑戦し、今春は初の小説『昨夜のカレー、明日のパン』を刊行。同時期に発行された文藝別冊『木皿泉―物語る夫婦の脚本と小説(いずれも河出書房新社)』とともに大きな反響を呼んだ。ドラマ作品にふれたことのなかった人びとにも木皿泉の名は知れ渡り、ファン層は拡大の一途をたどっている。表現メディアを横断しながら実績を重ねる中で、木皿泉は「日常を描く作家」と呼ばれるようになった。世の中の誰もが送っている「日常」を背景にした物語を一貫して描き続けてきたからだ。スリリングな大事件や、胸を焦がすような恋愛沙汰は起こらない。代わりに、日常生活に紛れ込んでしまった幸せの見つけ方や、

ふとした時に襲ってくる孤独感・喪失感との向き合い方について、登場人物たちが何気ないコトバで、本物の日常を生きる私たちにヒントを与えてくれる。それが木皿作品の揺るぎないスタイルであり、多くの人に支持される理由であらう。もともと、「日常」をベースにした物語を追求しはじめたのは、妻の妻鹿年季子さんの方だった。その作風は漫才作家で現在は夫の和泉努さんとの出会いによって、さらにのびのびと輝きを増すことになる。やがて木皿泉という共同のペンネームを名乗るようになり、「木皿ワールド」と評される独特の作品スタイルが形作られた。インタビューは数々の作品が生みだされてきた木皿泉の自宅で行われた。二人の何気ない会話は、妻鹿さんがそのほとんどをしゃべり、合間に和泉さんがポンと大事なひと言を発して進んでいく。そこにはまるで木皿作品そのままのような空気が流れていた。二人で暮らし、夫婦である以前に、個性の違う作家である妻鹿さんと和泉さん。そんな二人が、日常にこだわり、作品を描き続ける理由とは。物語に込める思いとは。木皿泉の二人がつむぎ出す物語の魅力と、その根底にある思いが明かされた。



脚本家は設計図を書く仕事

——お二人はどういうきっかけで知り合ったのですか。

妻鹿 私は30歳すぎまで会社員をしていたのですが、その間にシナリオ学校に通ったり、アマチュアの作家グループに入り込んでいたんです。シナリオライターとしてデビューしたのは31歳のころ。ラジオドラマのコンクールで賞をいただいて、作品の録音を終えたあとの打ち上げ会場で彼（和泉）と知り合いました。彼はその10年前くらいにNHKの漫才演芸コンクールで賞を取っていて、すでに漫才作家として活躍していたので、すぐ才気ばしった人だという噂は聞いていました。でも実際に会って話してみると、なんだか素朴でかわいい人でした。やりとりするなか、冗談半分で「二人でやらないか」って話になって、それが本当になっちゃったんです。もし知り合わなかったら、いまみたいな笑いやファンタジーのエッセンスを含んだ作品は生まれなかったでしょうね。

——夫婦の脚本家、あまりないケースですね。

和泉 夫婦かどうかは別として、映画黄金期の1950〜60年代は、監督と脚本家の共同執筆がほとんどだったんですよ。有名なところでは、小津安二郎と野田高梧、市川崑と和

田夏十とかね。黒澤明も小国英雄や菊島隆三らと組んで書いてます。その方が合理的なんですよ。というのは、監督が一人で脚本を書いちゃうと、細かい部分まで詰めずに、あとは撮影現場でなんとかしようとなつて、結果的に矛盾が生じたり、隙がでたりする。だから物語の大筋は書くにせよ、細かい部分は脚本家に任せた方がいいものができるんです。

——お二人の場合は脚本家同士ですが、役割分担はされているんですか。

妻鹿 実際に書くのは私がするんですが、テーマについて話し合ったり、煮詰まっている時には、彼がいろいろとアイデアを出してくれます。ドラマの中に出てくるファンタジーの要素とか、落語や詩から拝借したセリフなんかもそうですね。彼が「入力」で、私が「出力」みたいな感じかな。

——何もないところから、テーマを考えて書きはじめるんですか。

妻鹿 そうですね。原作の有無など状況によって違ってきますが、基本的にはプロデューサーから「こんなドラマをつくりたい」というリクエストがあつて、簡単な企画書を書いて出します。とくに問題がなければ、プロデューサーが監督やキャストなどを具体的に決めていくので、キャストが決まったあたりから本格的に

執筆開始、という流れです。『Q10』のときは、プロデューサーの河野（英裕）くんが「ロボットの学園モノをやりたい」と言ってきたのがはじまり。そういうふうにお題だけいただいた二人であれこれ話し合いながら書くんです。ドラマを一から組み立てるという意味では、設計図を書く仕事と似ていますね。

——全体のプロットなど、はじめの段階である程度、物語の筋を決めておくのですか。

和泉 うちの場合、それはないな。

妻鹿 そう。じつは企画書やあらすじも滅多に書かないんです。プロットも書かない。

和泉 どんどん好きな方向に向かっていくのが楽しいんですよ。普段の会話でも思わぬところに話が転がっていくじゃないですか。それが物語のおもしろさだと思ってる、と僕はそばで見ている感じのけど。

妻鹿 絵とかの造形作品でも、やっているうちに「こんなんできた！」という人もいれば、プラモデルみたいに最初から全部決めておいてその通りにつくらないと気が済まない人もいますよね。私は間違いなく前者のタイプです。さっき言った通り脚本は設計図だから、本来はシステムチックにつくるべきなんですけど、なかなかできないというか、私たちの持ち味が発揮できないような気がして……。

のにも、食べることに興味はなかったんですよ。

妻鹿 興味がないどころか、嫌いだったよ。だからガリガリに痩せてた。食べるのも何でも、世間一般の人が主張する幸せについて懐疑的でしたね。本当にそれで幸せなのって。

和泉 共同幻想がもてなかったんだらうね。

妻鹿 そうそう。実感としてないものを言葉だけで言われても信じられなくて。母からは「結婚しなきゃ幸せになれない」って言われ続けていて、「でもお母ちゃんは全然幸せそうじゃない。結婚して何が幸せなの」と聞いたら、しばらく考えて「好きな夕ご飯がつけられること」だって（笑）。私は人のためにご飯をつくるなんてまっぴらごめんと思ってたし、料理にも興味はなかったから、理解できませんでしたけど。

——ドラマに家族で食卓を囲むシーンなどがよく出てくるので、ちょっと意外です。

妻鹿 いまは食べるのもつくるのも好きですよ。きっかけは大人になってたまたま読んだ、檀一雄さんの『檀流クッキング』という本でした。そこに書かれている料理がとってもおいしそうで、私にもできるかなと思つてつくったら、家族がすごく喜んでくれて、それが私もうれしかった。それからですね、つくるようになってたのは。家族でつくって鍋だつて昔は

木皿泉 作品年表

1990〜91年・98年スペシャル
テレビドラマ

「やっぱり猫が好き」（フジテレビ）
第2シーズンより十数回担当。マンションの1室を舞台に、思田家姉妹が繰り広げる騒動を描いたコメディドラマ。もたいまさこ、室井滋、小林聡美主演。

1998〜99年
テレビドラマ

「くらげが眠るまで」（スカパー）
バツイチ男とその若い妻が繰り広げるコメディドラマ。イッセー尾形、永作博美出演。

2001〜08年
ラジオドラマ

「ENOS ON THE WAY COMEDY 道草」
（TOKYO FM）
車をテーマにしたミニドラマ。西村雅彦主演。

2003年
テレビドラマ

「すいか」（日本テレビ）
初の連続テレビドラマ。信用金庫に勤めるOLが、風変わりな人々の住む女子下宿での出会いや出来事を通して、日常のささやかな幸福に気づき成長していく。小林聡美主演。第22回向田邦子賞受賞。第41回ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞受賞。



「すいか」
DVD-BOX 発売中
18,060円（税込）
発売元：パップ
©日本テレビ

2005年
テレビドラマ

「野ブタ。をプロデュース」（日本テレビ）
連続テレビドラマ3作目。男子高校生コンビが、転校生でいじめられっこの野ブタを人気者にプロデュースする青春ドラマ。亀梨和也、山下智久、堀北真希主演。第47回ドラマアカデミー賞で優秀作品賞など6部門受賞。



「野ブタ。をプロデュース」
DVD-BOX 発売中
18,060円（税込）
発売元：パップ
©日本テレビ

2007年
テレビドラマ

「セクシーボイスアンドロボ」（日本テレビ）
連続テレビドラマ3作目。ある誘拐事件を解決に導いた七色の声を操る少女は、相棒の青年とともに謎の老人の様々な依頼を解決していく。松山ケンイチ、大後寿々花主演。

2010年
エッセイ

「二度寝で番茶」（双葉社）
雑誌「小説推理」で連載された「二度寝で番茶」などを収録したエッセイ集。

——日常を描き続ける理由

——同じと仰いますと、具体的にど



大嫌いだっただけ、家を出て、友達と一緒に食べたときに、はじめておいしいと思えました。要は、自発的にやるのと、やらされるのでは、全然違うわけです。そうやって実感を繰り返すうちに、何事もプロセスが楽しいんだということが、だんだんわかってきました。いまでは日常を描く作家みたいに使われていますが、本来は、憎むべき日常から出発しているんです。

いま、物語にできること

——近年は舞台やアニメ映画、小説など、テレビドラマ以外の作品も手

がけていらっしやいますが、いずれも架空の物語、フィクションに他なりません。物語のもつ力とは、ずばり何でしょう。

妻鹿 うーん、何でしょうね。報道やドキュメンタリー番組を見てみると、やっぱり現実はずごいな、圧倒的だなんて思うんです。

和泉 だからといって、ドキュメンタリータッチのドラマをやるうちは一切思わない。そういう依頼があつて、資料もたくさん送られてきたんだけど、全部無視してファンタジックな物語にしてみました。

妻鹿 私たちには、フィクションにはフィクションにしかできないことが必ずあるという思いがあるしね。『夜と霧』という強制収容所の体験記

をつづったヴィクトール・フランクルの有名な本がありますよね。収容所に入って一年くらい経つたときに、いくらナチスでもクリスマスまでには帰してくれるだろうっていう噂が流れて、みんなさうだよなって、信じてるんです。過酷な状況なので一日に何人も人が死んでいくんだけど、その年で一番多くの人が死んだのは、クリスマスの日なんです。つまり、クリスマスには帰れると思っていたからこそ、それまで何とか生き延びることができた。彼らにとって唯一の生きる希望だったわけですね。

——フィクションに触れること自体が、日常の救いになるのかもしれないね。

妻鹿 最初から嘘だとわかって入っていくと、なんか落ち着きません？ 本当のフリをしなくていいというか。いま、私たちは本当のフリをして生きていると思うんです。たとえば、人権は本当にあるのか。民主主義社会のなかでみんなが「ある」と言っているだけで、「今日からやめます」と言ったらなくなるような脆いものなんじゃないでしょうか。世の中がそういう物事でできているということ



京都精華大学の公開講座でも講師を務めた

を、東日本大震災で気づかされた人は多いと思います。それでも生きていかなければならないしんどい状況から、唯一解き放ってくれるのが、フィクションだと私は思ってる。だから、物語をつくる者として、また長く生きてきた者としては、世の中のルールなんていつ変わるかわからないんだよ、いま苦しくても数年後には変わるかもよってことを伝え続けていきたい。そうかもね、また明日も生きてみようって思ってもらえるように。

学生に伝えたい 表現者の心得

——では最後に、来年度より母校・京都精華大学のポピュラーカルチャー学部で講師を務められる予定ですが、学生に向けてメッセージをお願いします。

妻鹿 何かを言いたいというより、若い人たちについて知りたいという思いの方が強いですね。普段、20歳前後の若い人と接する機会がほとんどないので、自分の若いころと比べて、基本的に変わっていないのか、あるいはすごく変わっているのかどうか。それから、この時代に文章をやってみたいという人は、どういう人なんだろうなあと。教えることがあるとしたら、ものを書くことはそんなに大したことじゃないってことかな(笑)。ただ、文筆に限らず、ものをつくる基本的なこととして、自分の作品を大事にしてほしいと伝えたいですね。私はそのことを精華で学んだんですよ。自分の作品を大事にしない人は、たまにいいものをつくっても長続きしない、落ちていくんです。単に扱いは方の問題でなく、ものづくりに対する姿勢ですよ。そういう基本的なところも含めて、若い人たちの役に立てたらいいなあと思っています。

木皿 泉 KIZARA Izumi

1952年生まれの和泉努と、57年生まれの妻鹿な季子による夫婦脚本家。ともに兵庫県出身。テレビドラマを中心に、ラジオドラマ、舞台、アニメーション映画の脚本などでも活躍する。今、各界で最も評価されている脚本家。主なテレビドラマ作品に「すいか」「野ブタ。をプロデュース」「Q10」などがある。今夏、放送から10年を経て「すいか」のシナリオブックが文庫化された。2014年、新作舞台上演予定。

取材日／2013年6月27日 場所／木皿泉宅 取材・原稿／岡田香絵 写真／石本正人 コーディネート／光川貴浩 (bank to)

テレビドラマ

「Q10 (キュート)」(日本テレビ)
平凡で臆病で、人生をあきらめかけた男子高校生が、転校生のロボット・Q10に恋をする。様々な「愛と友情と生き方」を描く涙と笑いの物語。佐藤健、前田敦子主演。第48回ギャラクシー賞優秀賞受賞。



「Q10」
DVD・BOX 発売中
17,010円(税込)
発売元：バップ
©日本テレビ

2012年
ラジオドラマ

「F5シッター LET IT PONI」(NHK・FM)
「えんよ」(NHK・FM)

四国を舞台に、研修医の女性がおばあさんの姿をしたタヌキと接するなかで、生きる上で大切なことに気づいていく。椋桐美、白石加代子、山口祐一郎出演。

舞台

「すうねるところ」(シアタートラムほか)
初の舞台作品。不死身の吸血鬼が人間の子どもを育てるといふ非日常な日常の中で、生きることに、死ぬことに、そして家族のあり方を問いかける。薬師丸ひろ子主演。

2013年

ラジオドラマ

「君はほえぬは」(KAVCホール)
舞台2作目。神戸の洋館を舞台に、そこに暮らすことになった女性たちと、ひきこもり男性が紡ぐ、ほろ苦くも優しい日常を描いた作品。末満健一出演。

小説

「昨夜のカレー、明日のパン」(河出書房新社)
初の小説作品。結婚してたった2年で遺された嫁と、一緒に暮らしつづける義父を中心に、変化していく日常を温かく描いた連作長編小説。



「昨夜のカレー、明日のパン」
河出書房新社

「木皿泉―物語る夫婦の脚本と小説」(河出書房新社)
作家・重松清による木皿泉へのロングインタビューのほか、ラジオドラマの脚本、未発表小説の「晩パン屋」などを収録。

エッセイ

「木皿食堂」(双葉社)
神戸新聞で連載中の「木皿食堂」やマンガ家・羽海野チカとの対談、京都精華大学で行ったシナリオ講座などが収められている。

劇場アニメーション

「ハル」(アニメ脚本・ノベライズ)
本作で初のアニメーション脚本、ノベライズを手がける。近未来の京都で生まれた、人とロボットの奇跡のラブストーリー作品。



「ハル」
©2013 ハル製作委員会

ポピュラーカルチャー学部の豪華な非常勤講師陣

ポピュラーカルチャー学部(音楽コース、ファッションコース)では、次世代の文化を創造するクリエイターの育成を目指している。そのため講義科目、実技・演習科目ともにポピュラーカルチャーの最前線で活躍する研究者、クリエイターが教員を務める。また、来年からは木皿泉も非常勤講師として教壇に立つことが決まっている。ここでは、両コースの学生がともに学びを深める選択科目を担当する非常勤講師と、その授業をいくつかピックアップする。

宇野常寛

担当科目

「サブカルチャー論」

講義



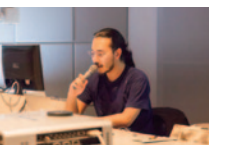
評論家。1978年生まれ。批評誌『PLANETS』編集長。著書に『ゼロ年代の想像力』(早川書房)、『リトル・ピープルの時代』(幻冬舎)など。アイドルグループAKB48にも造詣が深い。

たてはなのりたか 館鼻則孝

担当科目

「企画演習4」

実技



ファッションデザイナー、アーティスト。1985年生まれ。将来的に海外で活動することを意識し、東京藝術大学で日本の伝統的な染織技法について学ぶ。レディガガのシューズを担当したことで一躍有名に。

情報化の進行によるあたらしい文化批評の基礎力や、あたらしい枠組みに基づいた作品鑑賞と批評の実践能力の獲得を目的とした授業。美少女・ロボット・秋葉原・カラオケ・AKB48などを取り上げ、文化批評の着眼点をレクチャーした。ポップカルチャーを現在進行形で享受する多くの学生から高い注目を浴びる授業となった。



学生時代から積極的に自身を売り込むことで成功を収めてきた経験をもとに、セルフプロデュース能力をやしなう授業を担当した。自己のルーツを探る、社会に目を向け時代を知る、グローバルな視点から新しい価値を見出す、といったテーマで、授業では講義・課題制作を交えながら学生たちは自らをブランディングする力を伸ばしていった。



ヨーロッパ企画

担当科目

「企画演習5」

実技



劇団。1998年に結成。舞台・映画・テレビなど様々なメディアで作品を作り続け、京都を拠点に日本全国で活動している。諏訪雅ら数名のメンバーが授業を担当。

集団でのモノ作りをテーマとし、企画、制作、プレゼンテーションの体験を目的とした授業。約4カ月にわたる授業の前半では班ごとに分かれてショートムービーを制作。後半は全員でオリジナル演劇作品を企画し、学外で上演。モノ作りの苦労やおもしろさを体感的・実践的に学べる貴重な機会となった。



今後も錚々たる顔ぶれが登場

2013年度後期以降も、様々な分野で活躍する教員がポピュラーカルチャー学部で教鞭を執る。ポピュラーカルチャー学部での学びは、年を経るごとに専門領域を拡張し、厚みを増していく。

- ◎木皿泉(脚本家)
- ◎大宮エリー(作家、脚本家、演出家、映像ディレクター)
- ◎坂本公成(振付・演出家、ダンスカンパニー「Monochrome Circus」主宰)
- ◎遠藤水城(インディペンデントキュレーター)
- ◎山崎二郎(編集者、『BARFOUT!』編集長)など

学長コラム

セイカ幻史

イラスト／文 学長 坪内成晃

初代学長岡本清一先生は「大学」は50年の歴史を経てこそはじめて真の大学となると語っていた。その意味で京都精華大学は未だ真の大学とよべないかもしれない。しかし、創立以来45年の間、教職員・学生が一体であるという理念は、授業以外の様々な取組みのなかで友愛の心を育んできた。過去は戻らない。すべて幻の出来事だ。だが、真の自由自治の大学をつくるにはこれからも幻想を求め続けなければならない。

未完のロシアアバンギャルドの代表建築、タトリン設計の「第三インターナショナル記念塔」模型を、絵画コースの学生有志数人が寄付を募って日本館まえの芝生に制作。土台基礎をふくめ、すべて歴史的図面片手に自力で完成。美術評論家界で話題となる。しかし後年、キャンパス整備のため取壊しとなる。そして、ふたたび幻の建築となる。(1979年)

幻世の洋上セミナー

人文学部開設記念として教職員と人文新入生合同で客船を貸切つての洋上セミナーを実施。航路は瀬戸内海から種子島、対馬をめぐる100時間。講演あり、暗黒舞踏あり、激論あり、船酔いありで希望と狂喜のクルージングであった。(1989年)

自由自治は幻想である

かつて学生が「自由自治は幻想である」というスローガンを掲げて校舎の一部を封鎖したことがあった。「幻想」という言葉は実体的ない否定的な意味と、美しく、強い観念、想像力という意味もある。このスローガンこそ、不可視の世界にまで入りこんで自由の問題を考え自由自治のもつ否定と肯定、困難と愉快、危機と至福を指し示すものではなかったか。(笠原芳光「自由自治考」より)

幻覚の「世界歴史都市博」イベント

デザイン学科の学生4名が中心となり、「世界歴史都市博」で京都の保存をテーマに60mの空間をデザイン。鉄くずジャンクの「鬼の柱」オリジナル五千枚の「地の柱」、豚と鯉のデスマスクの「狂の柱」内部から光がもれる「女の柱」による4本の柱がコンセプト。天井は800枚のドローイングと12000個の鈴を用いた祝祭世界の創出。夏から秋にかけて多くの学生を巻き込んで制作された空間は32万人の来場者の度肝をぬいた。(1987年)

夢幻のコング炎上

短大時代最後の大学祭。開夜のキャンパスに轟わたる音響とともに校舎屋上から身長8mのキングコング登場。これは、学科を超えた学生が参加する「基礎ゼミIIデザインする」のイベントの序曲である。テーマは「Save on save」で、当時世界で勃発していたパンク現象と自然破壊をモチーフに50名の学生が連日徹夜でコングに衣装、音楽を創作したエゴ・ファッションショー。舞台は10トラックの荷台。花道は3階からの脱出シューター。ところがショーの終盤、コングの吹き出す火が自身に燃えうつり、大炎上のパニック。1時間のショーは大喝采のなかあえなく幕。近隣からの見物の子もたちは、その夜、興奮で眠れなかったらしい。ご迷惑をおかけしました。(1977年)

2012年度内定者の傾向 クリエイティブ系企業への就職増

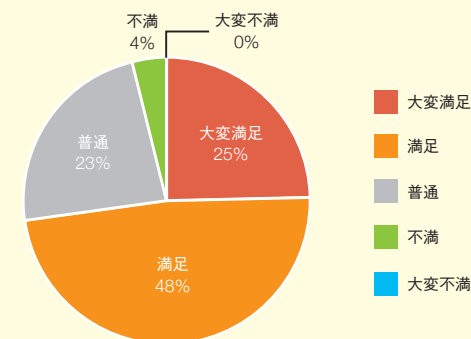
こうしたキャリア支援をうけ、2012年度は難関企業（上場企業、業界で注目されている先端企業）の内定者が大幅に増えた。また例年の傾向だが、学部を問わずゲーム・アニメーション業界への内定者が多いのも京都精華大学の特徴だ。

今回、2012年度に卒業した学生のうち就職決定者全員に行ったアンケートでは、卒業後の進路への満足度は「大変満足」「満足」を合わせて73%と高い数値となった。単なる就職の有無を示す就職率ではなく、質を重視する京都精華大学のキャリア支援の成果を表す結果となった。

内定先企業一例

(株)博報堂プロダクツ / (株)ワコール / ブラザー工業 (株) / トーヨーキッチンリビング (株) / 積水ハウス / グリー (株) / 面白法人カヤック / (株)サイバーエージェント / (株)DNP デジタルコム / (株)カブコン / (株)ニューロン・エイジ / (株)プラチナゲームズ / (株)A-1Pictures / (株)マッドハウス / 京都たつた舞台 (株) / (株)ゆう工房ほか

卒業後の進路への満足度



キャリアを考える科目では、 新たな働き方、ビジネスを体現するゲスト講師が登場

京都精華大学のキャリア支援は「『好き』や『得意』を活かし、わくわくする未来を提示する」をコンセプトに行っている。そのため、低学年から進路に関する意識を身につけ、ビジネスや自己プロデュースについて学ぶ授業をカリキュラムの中に組み込んでいる。ゲストに、新たな事業を生み出したプロデューサーや、先端企業の代表、若手起業家を招き、学生らに刺激を与えるのも大きな特徴だ。

2013年度前期 ゲスト講師

株式会社インフォバーン

プロゲメディア「GIZMODE (ギズモード)」やソーシャルタイセービス「digimo (デジモ)」など数々の注目メディアを手がける最先端IT企業。

株式会社モエ・ジャパン

秋葉原でライブハウス、ディアステージを運営し、でんぱ組.incをはじめライブアイドルを次々に生みだしているプロデュース集団。

株式会社イルカ

映像制作会社。映画・TV・アニメ・ゲーム・パチンコなどのメディアを横断して映像制作を行う稀有な存在。新たなカルチャーの創造を目指して2010年に設立された。

彼らがレクチャーするのは自己ブランディングやプロデュース力。就職活動に必要な「自分を売り込む」ことの重要性や考え方を学ぶことができる。また、クリエイターや独立をめざす学生にとっても役立つスキルだ。

そのほかにも、よしもとクリエイティブ・エージェンシーの社員らがリレー方式で担当する「クリエイティブの現場」、ゲームやアニメーション業界を目指す学生向けの「キャリアのためのデッサン」、「作品ポートフォリオ演習」などの授業で、就職活動を支えている。

わくわくした未来をつくる、独自の進路支援プログラムを実施

授業のほかにも、独自の進路サポートプログラムが用意されている。自分の強みを活かした仕事に就くことを基本におくため、おのずと「自己分析講座」では自分の「好き」と「得意」を見つけることからスタートする。また、業界についての知識を深める「業界就職講座」、クリエイティブ系企業への就職活動のノウハウを身につける「進路・就職ガイダンス」、マンガ家志望者のためにコミック雑誌編集者を招く「作品講評会」も行っている。

2013年度後期の新たな取り組みとしては、学生が学生をサポートする「ピア・サポート制度」を導入。今年度すでに企業に内定した4年生が、就職活動で悩む学生や、これから進路を考える学生らの個別相談に応じる。教職員らの支援に加えて、学生同士の支援を行うことで、従来よりも支援の層を厚くしていく試みだ。

また、「東京作品プレゼンツアー」を9月に実施。これは、学生がポートフォリオ（作品集）をもって東京のクリエイティブ系企業を訪ね、プレゼンテーションやポートフォリオへのアドバイスを受けるもの。いわば面接の練習という位置づけだが、このツアーをきっかけに内定をもらう学生もいる。

さらには、デザイン・クリエイティブ系企業へのインターンシップなど、京都精華大学ならではの進路支援プログラムが今後も予定されている。



コミック編集部作品講評会の様子



東京作品プレゼンツアーの様子

01 ポビュラーカルチャー学部
客員教員が新たに決定

2013年10月より、ポビュラーカルチャー学部の客員教員にファッションデザイナーのナイジェル・ケイボン氏が就任することが決定した。

ナイジェル・ケイボン
(ファッションデザイナー)

客員教員／1949年、イギリス生まれ。自身のブランド「Nigel Cabourn」を手がける。1971年、大学生時代に自身のブランドを旗揚げ。ビンテージミリタリー、ワークウェア、アウトドアウェアの世界的に有名なコレクターでもあり、4000点を越えるコレクションからインスパイアされたデザインが特徴である。店舗は、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、アメリカ、カナダ、香港、韓国、台湾、日本など20カ国以上で展開。また、1980年代以降、デザインコンサルタントとしてBABBOURやALPHA INDUSTRIESなど数多くのブランドにデザインを提供してきた経歴も持つ。



ナイジェル・ケイボン

www.cabourn.com
www.cabourn.jp

02 マンガ学部客員教員 業田良家が「手塚治虫文化賞 短編賞」受賞

マンガ学部客員教員 業田良家の作品「機械仕掛けの愛」が「第17回手塚治虫文化賞 短編賞」を受賞した。

手塚治虫文化賞は、日本のマンガ文化の発展、向上に大きな役割を果たした手塚治虫氏の業績を記念し、手塚氏の志を継いでマンガ文化の健全な発展に寄与することを目的に創設。受賞作「機械仕掛けの愛」は、心を持ったロボットたちを描くオムニバス作品。持ち主に飽きられてしまったペットロボや、人間の遺言で自由を手に入れた介護ロボたちの愛情と葛藤を描いた。現在、「ビッグコミック増刊号」(小学館)で連載中。

03 「マンガ・アニメーション研究 マッピング・プロジェクト 調査報告書」を公開

マンガ学部教員らが作成に携わった「マンガ・アニメーション研究 マッピング・プロジェクト 調査報告書」が公開された。

この報告書は、研究領域が多様で分断されがちなマンガとアニメーションの研究を俯瞰し、統合的に見ることが目指すプロジェクトの足がかりとして作成された。報告書はメディア芸術カ

04 瀬戸内国際芸術祭に芸術学部
の学生が参加

レントコンテンツのWebサイトにて無料でダウンロードすることが可能。マンガ学部教員のジャクリヌ・ベルントと吉村和真がマンガ分野を監督、国際マンガ研究センター研究員の杉本パウエンス・ジェシカが研究チームの一員として参加した。

メディア芸術カレントコンテンツ
<http://mediag.jp/project/project/mapping-report.html>

瀬戸内海の12の島と高松・宇野を会場に3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭に芸術学部の教員、学生らが参加する。

2013年は、春、夏、秋の3シーズンに分けて開催され、京都精華大学の学生らが参加するのは秋シーズンのみ。高見島で地域性を活かした立体、テキスタイル作品などを展示する。

「瀬戸内国際芸術祭2013」
会期 秋10月5日(土)～11月4日
(月・振替休日)
開催地 高見島ほか
料金 一般4500円／高校生3000円／中学生以下無料
<http://setouchi-artfest.jp/>

05 教員の活躍

著作をはじめ、展覧会、作品発表など、京都精華大学の教員の活躍を紹介する。

◎展覧会

「CLOTH & MEMORY2」

上野真知子(テキスタイルコース教員)／テキスタイルアーティスト)ほか
イギリス、日本、ドイツ、ノルウェーの作家23名で構成された現代テキスタイルの展覧会。

開催期間 11月3日(日)

会場 イギリス・Salts Mill and 1853 Gallery
<http://www.saltsmill.org.uk/>

問合せ先 Salts Mill and 1853 Gallery
+44 1274 437942
saltlake.vic@bradford.gov.uk

日越外交関係40周年記念鳥羽美花展「残された風景 Forever in one's soul」

鳥羽美花(テキスタイルコース教員)／染色画家)

日越外交関係40周年事業の一つとして実施。新作を含め32点を展示予定。

開催期間 11月23日(土)～12月15日(日)
会場 ベトナム・ホーチミン市美術館
<http://www.vntam.vn/>

問い合わせ キャブリー長谷川
03-3289-0350

篠原ユキオ漫画展

「HITOKOMART」

篠原ユキオ(カートゥーンコース教員)／マンガ家)

これまで描き続けてきたヒトコマ漫画のセレクト作品約50点と新作の大作ヒトコマ作品約20点、合計約70点を展示する。

開催期間 8月27日(火)～9月3日(火)

会場 元麻布ギャラリー
問い合わせ 03-3796-5567

高橋コレクション マインドフルネス！
松井えり菜(カートゥーンコース教員)／美術家)ほか

現代美術コレクター・高橋龍太郎氏のコレクションから、日本を代表する現代美術家40組14点を展示。

開催期間 9月14日(土)～11月24日(日)

会場 札幌芸術の森美術館
問い合わせ 011-591-0090

◎著作(2013年6月～8月発行)

「TTPのフチキ Magagine プラス」
タナカカツキ(デザイン学部客員教員)／マンガ家)／扶桑社

大人気になったカプセル玩具・コップのフチ子さんのファンブック。

「Mangas Cultural Crossroads」
ジャクリヌ・ベルント(マンガ学部教員)／マンガ研究者)ほか
Routledge(New York)

マンガの芸術性とリテラシーに注目し、20世紀に形作られたマンガの異文化間における変換や、マンガのグローバル化について検証する。

「ラティノ」1巻

おおひなたごう(ギャグマンガコース教員)／マンガ家)／講談社

見た目は恐竜、中身はガール？ふしぎな生き物・ラティノのおかしな生態をふんわり描く、風変わりショートコミック。

「かくかくしかじか」2巻

東村アキコ(マンガ学部客員教員)／マンガ家)／集英社

少女マンガ家を夢見たあの頃を描くドラマチック・メモリーズ第2弾。

「海月姫」12巻

東村アキコ(マンガ学部客員教員)／マンガ家)／講談社

クラゲオタクの少女と女装男子が繰り広げる騒動を描いたシニールコメディ。

「不緒の鳥十二国記」

絵・山田章博(マンガ学部客員教員)／マンガ家)／新潮社

表題作ほか、己の役割を全うすべく、走り煩悶する、名も無き男たちの清廉なる生き様を描く短編4編を収録。

2012 年度決算について

2012 年度の帰属収入は前年度から 4 億 7 千万円減少し、62 億 4 千万円でした。このうち学生納付金は 84%を占めています。当年度はポピュラーカルチャー学部が主として使用する新校舎を建設するための設計費、工事着手金として 4 億 7 千万円を支出しました。さらに、新しい学科、コースの設置や学部の改編に備えて各施設設備をリニューアルしたため、経常的な図書・備品の充実等も含め、施設設備関係全体では 7 億 4 千万円の支出となりました。また、前々年度より開始した新校舎建設のための積み立て（第 2 号基本金組入）も行いました。なお、この積み立ては新校舎の完成後に取り崩し、建設費用の残額分に充てる予定です。これにより、当年度の大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は 8 億 8 千万円となりました。

消費支出（人件費・経費等）は 59 億 5 千万円で、当年度の消費収支は 6 億円の支出超過となり、この結果、累積消費支出超過額は 36 億 5 千万円に増加しました。しかしながら、基本金組入前の収支は収入超過を維持しています。

支払資金（現金・預金）は前年比 8 億 4 千万円減の 35 億 1 千万円となりました。但し、支払資金の一部は固定資産の取得に充てているため、支払資金を含む流動資産が減少となっている一方で、大学の資産全体としては 1 億 9 千万円が増加しました。

以上の結果、自己資金率は 0.4%増加し、81.2%となりました。

2012 年度決算 2012 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日まで
資金収支計算書

収入の部		金額
学生生徒等納付金収入		5,228,505,600
手数料収入		54,764,299
寄付金収入		34,245,000
補助金収入		479,354,910
国庫補助金収入		479,064,000
地方公共団体補助金収入		290,910
資産運用収入		94,514,428
資産売却収入		600,464,989
事業収入		257,918,520
雑収入		79,415,044
借入金等収入		225,660,000
前受金収入		1,478,027,942
その他の収入		205,148,732
資金収入調整勘定		△ 1,539,159,555
前年度繰越支払資金		4,353,411,149
収入の部合計		11,552,271,058
支出の部		金額
人件費支出		3,063,137,292
教育研究経費支出		1,405,394,900
管理経費支出		686,961,841
借入金等利息支出		56,515,347
借入金等返済支出		507,950,000
施設関係支出		680,542,803
設備関係支出		59,110,771
資産運用支出		1,600,110,000
その他の支出		163,471,237
資金支出調整勘定		△ 185,332,211
次年度繰越支払資金		3,514,409,078
支出の部合計		11,552,271,058

消費収支計算書

消費収入の部		金額
学生生徒等納付金		5,228,505,600
手数料		54,764,299
寄付金		38,241,577
補助金		479,354,910
国庫補助金		479,064,000
地方公共団体補助金		290,910
資産運用収入		94,514,428
資産売却差額		7,210,000
事業収入		257,918,520
雑収入		79,415,044
帰属収入合計		6,239,924,378
基本金組入額合計		△ 882,864,512
消費収入の部合計		5,357,059,866
消費支出の部		金額
人件費		3,096,356,127
教育研究経費		2,009,970,880
管理経費		731,663,759
借入金等利息		56,515,347
資産処分差額		44,810,875
徴収不能額		15,446,500
消費支出の部合計		5,954,763,488
当年度消費支出超過額		597,703,622
前年度繰越消費支出超過額		3,049,018,997
翌年度繰越消費支出超過額		3,646,722,619

『Vanitas』No.002
蘆田裕史（ファッションコース教員／研究者）
日本のファッション批評の場を確立するために刊行された先鋭的なファッション批評誌、第 2 弾。水野大二郎氏との共同責任編集。

◎CD
『まるちゃん』の静岡音頭
作曲・細野晴臣（ポピュラーカルチャー学部客員教員／ミュージシャン）／ワーナーミュージック・ジャパン

◎ライブ
『ザンバルナイト 2013』
Bose（音楽コース教員／ミュージシャン）、みうらじゅん（マンガ学部客員教員／マンガ家）
開演日時 9 月 21 日（土）15 時
会場 STUDIO COAST
出演 リリー・フランキー、みうらじゅん、スチャダラパーほか
問い合わせ HOT STUFF
03-5720-9999

『京都音楽博覧会 2013』
細野晴臣（ポピュラーカルチャー学部客員教員／ミュージシャン）
開演日時 9 月 22 日（日）12 時
会場 京都・梅小路公園 芝生広場

06 人文学部 学生グループの研究活動が「学まちコラボ事業」に採択
京都市と大学コンソーシアム京都が実施する「学まちコラボ事業（大学地域連携創造・支援事業）」の平成 25 年度支援事業として、人文学部の学生グループによる研究活動 3 件が認定された。

◎公演
「GANGIO GANGIOMA（ガンジオー・ガンジオーマ）―昭和 ENKA 集―」
三上賀代（人文学部教員／舞踏家）
人間のエネルギーの様々な側面、現れ、色合いを前面に映し出した舞踏作品。在学生、卒業生も出演。

◎京都公演
開催日時 10 月 26 日（土）19 時
10 月 27 日（日）15 時
会場 京都大学西部講堂

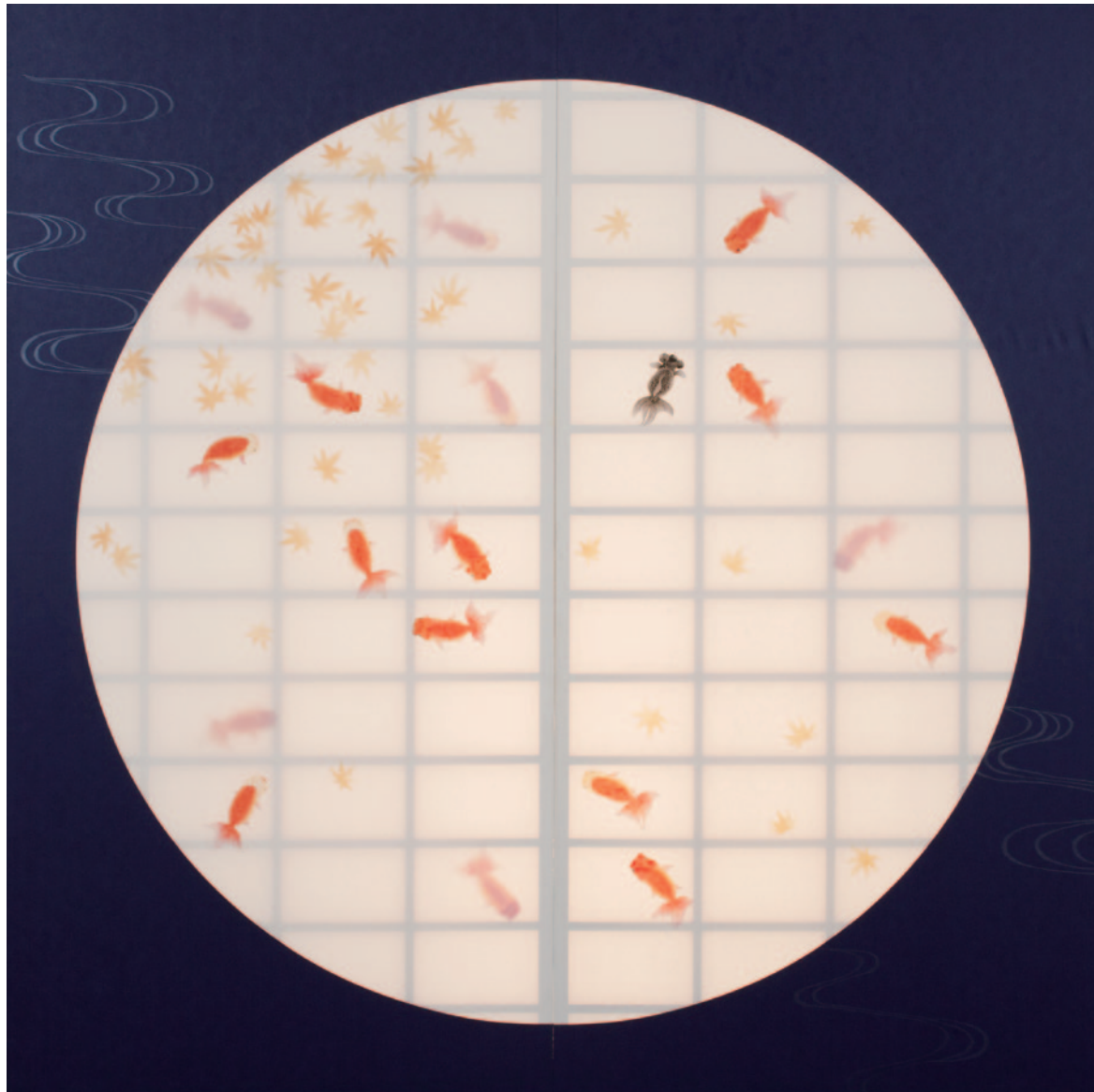
◎徳島公演
開催日時 10 月 29 日（火）19 時
会場 あわぎんホール（郷土文化会館）
問い合わせ とりふね舞踏舎
torifunebutohsha@hb.tpt.jp
0463-60-1008

【認定事業】
「京北町宇津ふれあい学びあい」
京都精華大学京北宇津宝さがし会
「もっと化けよう！三条通り」
精華おばけ会
「サッサ踊ろう 下鴨音頭」
京都精華大学地域文化プロジェクト

学まちコラボ事業は、魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生が地域と協働で取り組む事業を募集し、優れた取り組みに対して助成支援するもので、大学にとっては実践的な教育・研究機会の提供および人材育成、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化を図ることを目的としている。



研究室探訪 Laboratory 教員のブックレビュー Book Review
 セイカ事典 Cyclopedia イベント紹介 Event



「蘭鏡」伊藤未希（2012年度 日本画コース卒業制作）

貸借対照表 2013年3月31日現在

(単位：円)

科 目	資 産 の 部		増 減
	本年度末	前年度末	
固定資産	25,574,527,408	24,533,685,707	1,040,841,701
有形固定資産	18,039,176,877	17,966,906,799	72,270,078
土地	4,227,871,496	4,228,370,256	△ 498,760
建物	11,074,420,413	11,338,657,814	△ 264,237,401
構築物	322,349,269	359,597,674	△ 37,248,405
教育研究用機器備品	852,945,646	946,071,120	△ 93,125,474
その他の機器備品	18,423,305	24,700,118	△ 6,276,813
図書	1,074,399,902	1,069,452,580	4,947,322
車輛	1,666,846	57,237	1,609,609
建設仮勘定	467,100,000	0	467,100,000
その他の固定資産	7,535,350,531	6,566,778,908	968,571,623
電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
ソフトウェア	7,755,642	11,276,612	△ 3,520,970
有価証券	1,430,816,563	1,851,606,931	△ 420,790,368
長期貸付金	300,453,852	307,680,891	△ 7,227,039
退職給与引当特定資産	1,336,092,000	1,236,092,000	100,000,000
減価償却引当特定資産	3,995,561,000	2,795,451,000	1,200,110,000
第2号基本金引当資産	298,599,000	198,599,000	100,000,000
第3号基本金引当資産	150,000,000	150,000,000	0
保証金	12,439,050	12,439,050	0
流動資産	3,755,517,364	4,611,232,308	△ 855,714,944
現金預金	3,514,409,078	4,353,411,149	△ 839,002,071
未収入金	162,935,635	165,823,938	△ 2,888,303
貯蔵品	5,108,140	5,460,491	△ 352,351
短期貸付金	33,942,420	34,421,920	△ 479,500
立替金	9,133,421	15,756,626	△ 6,623,205
前払金	28,434,695	35,401,262	△ 6,966,567
仮払金	1,553,975	956,922	597,053
資産の部合計	29,330,044,772	29,144,918,015	185,126,757

2013年度予算について

2013年度には新校舎に関わる建設、設備費用の残額を計上している他、既存の施設や設備をリニューアルするための費用を例年に比べて多く計上しています。各実習室に配備している機器備品の入れ替えや情報館の空調設備の更新などといった教育研究施設の整備から大学直営レストラン「れあた」のリノベーションなど福利厚生施設の拡充やトイレの改修まで、その内容は多岐にわたります。それらの結果、単年度の消費収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含み6億3千万円の支出超過予算となっています。支払資金（現金・預金）は2012年度末から比べると1年間で13億8千万円が減少します。

当年度はポピュラーカルチャー学部を始めとした新学部、新学科、新コースの設置により、施設設備や人的資源に対して積極的に投資を行う必要があるため、2012年度に引き続いて単年度収支が支出超過となる予算となっています。但し、将来的には学生数の増加により、収支も回復していく見込みです。

2013年度予算 2013年4月1日から2014年3月31日まで

資金収支予算書

(単位：円)

収 入 の 部		金 額
科 目	金 額	
学生生徒等納付金収入		5,162,857,000
手数料収入		54,200,000
寄付金収入		34,000,000
補助金収入		474,314,000
資産運用収入		96,503,000
資産売却収入		400,357,000
事業収入		221,282,000
雑収入		72,416,000
借入金等収入		414,000,000
前受金収入		1,420,280,000
その他の収入		214,005,385
資金収入調整勘定		△ 1,578,027,942
前年度繰越支払資金		3,514,409,078
収入の部合計		10,500,595,521
支 出 の 部		金 額
科 目	金 額	
人件費支出		3,316,465,000
教育研究経費支出		1,344,358,000
管理経費支出		625,236,000
借入金等利息支出		41,813,000
借入金等返済支出		282,284,000
施設関係支出		1,025,504,000
設備関係支出		125,135,000
資産運用支出		1,500,000,000
その他の支出		202,490,765
(予備費)		0
資金支出調整勘定		△ 101,000,000
次年度繰越支払資金		2,138,309,756
支出の部合計		10,500,595,521

(単位：円)

負 債 の 部		増 減	
科 目	本年度末		
固定負債	3,339,887,414	3,588,952,579	△ 249,065,165
長期借入金	1,950,876,000	2,233,160,000	△ 282,284,000
退職給与引当金	1,389,011,414	1,355,792,579	33,218,835
流動負債	2,162,281,263	2,013,250,231	149,031,032
短期借入金	282,284,000	282,290,000	△ 6,000
未払金	172,790,765	104,055,323	68,735,442
前受金	1,478,027,942	1,380,100,170	97,927,772
預り金	229,178,556	246,804,738	△ 17,626,182
負債の部合計	5,502,168,677	5,602,202,810	△ 100,034,133
基 本 金 の 部		増 減	
科 目	本年度末		
第1号基本金	26,558,999,714	25,776,135,202	782,864,512
第2号基本金	298,599,000	198,599,000	100,000,000
第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第4号基本金	467,000,000	467,000,000	0
基本金の部合計	27,474,598,714	26,591,734,202	882,864,512
消 費 収 支 差 額 の 部		増 減	
科 目	本年度末		
翌年度繰越消費支出超過額	3,646,722,619	3,049,018,997	597,703,622
消費収支差額の部合計	△ 3,646,722,619	△ 3,049,018,997	△ 597,703,622
負 債 の 部、基 本 金 の 部 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部 合 計		増 減	
科 目	本年度末		
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	29,330,044,772	29,144,918,015	185,126,757

消費収支予算書

(単位：円)

消 費 収 入 の 部		金 額
科 目	金 額	
学生生徒等納付金		5,162,857,000
手数料		54,200,000
寄付金		37,700,000
補助金		474,314,000
資産運用収入		96,503,000
資産売却差額		6,500,000
事業収入		221,282,000
雑収入		72,416,000
帰属収入合計		6,125,772,000
基本金組入額合計		△ 701,156,000
消費収入の部合計		5,424,616,000
消 費 支 出 の 部		金 額
科 目	金 額	
人件費		3,339,665,000
教育研究経費		1,976,163,000
管理経費		674,215,000
借入金等利息		41,813,000
資産処分差額		12,500,000
徴収不能額		13,000,000
(予備費)		0
消費支出の部合計		6,057,356,000
当年度消費支出超過額		632,740,000
前年度繰越消費支出超過額		3,646,722,619
翌年度繰越消費支出超過額		4,279,462,619

セイカ事典 は行

京都精華大学に関わりの深い人、事、物を解説する。

は 版画コース【はんがこうす】

芸術学部メディア造形学科の1コース。専門領域としては1987年から設置。基本4版種の工房に加え、紙すき工房、写真スタジオの設備など日本屈指の環境が整う。

ひ 目高六郎【ひだかるくろう】

1917-。社会学者。東京大学教授を退職後、1976年から89年まで英語英文科に在籍。60年安保やベトナム戦争、水俣病など、その時代の社会問題と向き合い、行動してきた。

表現の大学【ひょうげんのだいがく】

表現を実践の核として位置付け、常に先進的に歩んできた京都精華大学のキャッチコピー。

ふ フィールドワーク【ふいーるどわーく】

人文学部で重視している、現地で体験しながら学ぶ調査研究方法。人文学部開設時(1989年)から学部の中心プログラムとして位置づけられてきた。

フロール【ふろーる】

京都精華大学が運営するギャラリー、「京都精華大学ギャラリーフロール」の通称。約12,000点の美術作品、工芸・民俗資料を所蔵。年間を通して、所蔵品展や特別展を広く一般に公開している。

ほ ポピュラーカルチャー学部【ほびゅらーかるちやーがくぶ】

2013年4月に開設。音楽とファッションの2コースからなる。収容定員118名。ポピュラー音楽やファッションを現代における教養と捉え、学問領域として扱う。



は、美術、造形、文化、産業として時代ごとにあらゆる要望に応えてきました。そうした重層的な成り立ちを知り、ひとつの技法を深めることで応用力が身につく。たとえば友禪を切り口にして、ものづくりの普遍的なあり方を、各自の制作に活かすことができると思っただけです。」

染色を専門としながら、美術史、伝統工芸、産業デザイン……と幅広い分野に精通する市村先生。多方面に及ぶ自身のスタンスを「スクランブル交差点のような役割です」と語る。染織という分野の垣根を飛び越え、新しい作品を生み出す学生を育てたいと考えている。市村先生のもとで学んだ学生たちは、柔軟な発想力で、従来にはなかった斬新な染織表現を可能にするだろう。

学生が来やすいようにと研究室のドアはいつも開けっ放し。「欲を言えば壁だっていらぬんですけどね」といたずらっぽく笑ったテキスタイルコースの市村富美夫先生。専門は染色で、2年生の授業では糸目友禪を教えている。友禪は京都を誕生の地として発展してきたが、ここ京都のなかであつても、江戸時代と同じ「手描き友禪」の技法を学ぶことができるのは京都精華大学のみだ。

「京都が誇る友禪ですが、じつは明治期に美術の世界から切り離されてしまったんです。絵画的芸術ではなく、産業デザインとして認識されてしまった。失われた友禪の絵画的な、もう一度この地に根づかせてくれる学生を育てたいですね。」

市村先生は、昔ながらの友禪の工程をこと細かに指導する。「布としての機能を保持したまま発達してきた染織

研究室探訪

先生の研究室、授業を訪ねて。

芸術学部 テキスタイルコース 市村研究室

市村富美夫

芸術学部テキスタイルコース教員。伝統的な素材や技法を用いながらも、ビビットな色使いとモダンで洗練された絵画世界の染織表現が特徴。今秋、瀬戸内国際芸術祭2013に出展予定。

Book Review

教員のブックレビュー

デザイン学部・山口義順が選ぶ「対象を凝視するきっかけになった」本



私はセイカの出身なのですが、学生時代は版画を専攻し、現在は写真を中心とした美術作家として活動しています。動画の映像を印刷紙に液晶プロジェクトで感光するという方法で、見た人にもこの本質を問うことを試みる作品をつくっています。今回、紹介する3冊は、私が、対象を凝視するきっかけになった本です。

院生のときに出会ったのが「なぜ、植物図鑑か」。著者の中平卓馬さんは、アレ、ブレ、ボケ(荒い画面、手ブレや被写体ブレ、ピントの外れ)といった、自身で確立した特徴的な写真表現を否定して、植物図鑑のように事物をありのままに切り取り、「記録」としての写真を試みた人物です。当時、人間の価値観で世界を捉えよ

うとしていた私にとって、まさに対象そのものに向き合う糸口になった本でした。

「猫楠」も院生のときに読みました。粘菌研究の第一人者である南方熊楠の半生を、水木しげるさんが描いた伝記マンガです。南方は庭にたまった落ち葉のなかにさえ粘菌を探すので、女中さんが掃除に困ったというほど、研究熱心な人です。繊細に粘菌をスケッチし、生涯で6000点以上の粘菌を標本にした研究者としての姿勢から、緻密に見つめることの重要性を学びましたね。

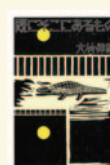
「既にそこにあるもの」は、大竹伸朗さんの著書。直島の「アイ・ラブ・湯」というアートな銭湯などをつくった現代芸術家です。その作風は一見「対象を凝視する」とは対照的なカラー・ジュ感の高い奇抜なものですが、路



「なぜ、植物図鑑か—中平卓馬映像論集」
中平卓馬(ちくま芸文庫)



「猫楠—南方熊楠の生涯」
水木しげる(角川文庫ソフィア)



「既にそこにあるもの」
大竹伸朗(ちくま文庫)

現代美術の閉塞した状況を打破し続ける現代芸術家、大竹伸朗のエッセイ。約20年間のあいたに雑誌や作品集、展覧会のカタログなどに書いた文章を一冊にまとめたもの。

粘菌研究の第一人者、南方熊楠。粘菌研究以外にも、博物学・民俗学・語学・性愛学など広範囲な才能で世界を驚愕させた、バイタリティーあふれる彼の生き様を描く。

上に捨てられたゴミを素材にしていて、身の回りにあるものを見つめ直す、というコンセプトがしっかりとある。書籍のタイトル通り、既にそこにあるものに実直に向き合った一冊だと思えます。

この春からイラストコースの教員として学生と向き合っています。イラストを描くにしても、写真を撮るにしても、対象を凝視して、観察することの大切さを伝えていきたいです。よく見るとものの本質が見えてきたり、新たな価値に気づかされたりします。「描く」きっかけにもなる写真や版画といった、直接「描く」こと以外の切り口から学生たちの感性の振り幅を広げることができればいいですね。



山口義順

デザイン学部イラストコース教員。主に写真の技法を用いた作品を制作し、個展やグループ展、アートフェアなどで発表を行う。「TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2012」準賞など。

イベント紹介

京都精華大学に関するイベントを案内する。一般の方も聴講、参加が可能。

◎デザイン学部・デザイン研究科教員
石川九楊連続「公開」講座

「国字論」東アジア文明圏とは何か

石川九楊（デザイン学部・デザイン研究科教員）による連続公開講座。

【日時】

第5回 10月3日（木） 朝鮮・越南の国字

第6回 12月12日（木） 偽字考

毎回13時～14時30分

【場所】京都精華大学 春秋館S201

【申込】不要

【問い合わせ】京都精華大学 教務課
（片田・西島）075-702-5129

◎京都国際マンガミュージアム展覧会

竹宮恵子監修 原画、(ダッシユ)

展示シリーズ

「凛々しく 可愛らしく」

退色しやすいマンガ原稿の保存と公開を両立させるべく開発した精巧な複製原画・原画、(ダッシユ)。今回は、原画・プロジェクトの新作を含む合計約120点もの作品を展示する。

【期間】～10月22日（火）

【場所】2階ギャラリー14・6

【出展作家】藤井千秋、花村えい子、ちばてつや、竹宮恵子

「花村えい子×ちばてつや×竹宮恵子スペシャル座談会」

「凛々しく 可愛らしく」 出展作家の花村えい子、ちばてつやと本プロジェクトの監修者である竹宮恵子によるトークショー。

【日時】9月22日（日）14時～16時

【場所】1階多目的映像ホール

【申込】不要

【定員】250名（先着順）

※当日10時よりミュージアム館内にて整理券を配布



◎花村えい子 ◎藤井千秋
◎ちばてつや ◎竹宮恵子

「諸星大二郎原画展

不熱1970-2012」

「西遊妖怪伝」など独特の世界観が展開する作品で多くの熱心な読者を獲得し続けているマンガ家・諸星大二郎氏の原画作品を紹介する展覧会を3期に分けて開催。

【期間】～9月29日（日）

【場所】1階エントランスホール

夏のメイン企画展
「バレエ・マンガ～永遠なる美しさ～」

バレエ・マンガを描いた代表的な作家12名の作品を中心にした展覧会。原画を中心としたおよそ120点の額装品、当時の貴重な雑誌資料などが公開される。

【期間】～9月23日（月・祝）

【場所】2階ギャラリー1・2・3

京都国際マンガミュージアム
【開館時間】10時～18時（入館は17時30分まで）
【休館日】水曜日 ※8月中は無休
www.kyotommi.jp

◎京都精華大学オープンキャンパス

教員による個別相談を中心に、大学やコースの紹介、キャンパスツアーなどをを行う「相談会型」のオープンキャンパスを開催。

【日時】10月6日（日）10時～16時

【場所】京都精華大学

【申込】不要

【問い合わせ】京都精華大学 入試課
0120-075017

www.kyoto-seika.ac.jp/opencampus/

京都精華大学とは

京都精華大学は表現の大学です。2013年4月にポピュラーカルチャー学部を開設。さらに、デザイン学部にはイラスト学科、マンガ学部にはギャグマンガコース、キャラクターデザインコースを新設しました。ポピュラーカルチャー、芸術、デザイン、マンガ、人文あわせて5学部編成となり、新しい文化と社会を創造する人材育成をさらに進化させていきます。

ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。

この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト

www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL：075-702-5201 / FAX：075-702-5391 E-mail：kikaku@kyoto-seika.ac.jp

◎卒業生の方へ

「木野通信」送付先住所の変更は、企画室・木野会事務局までご連絡ください。

E-mail：kinokai@kyoto-seika.ac.jp FAX：075-702-5391

木野通信 KINO PRESS

59

木野通信 第59号

2013年8月20日発行

京都精華大学 入試広報部 広報課

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL：075-702-5197

www.kyoto-seika.ac.jp

木野通信とは、京都精華大学が発行する広報誌です。

京都精華大学

芸術学部 / デザイン学部 / マンガ学部 / ポピュラーカルチャー学部 / 人文学部